

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム Ver.2016 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市名駅南1丁目PJ 新築工事	階数	地上12F
建設地	名古屋市中村区名駅南1丁目 1815、1816、1817、1818、1819、1820	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	204 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年2月14日
敷地面積	1,056 m ²	作成者	
建築面積	561 m ²	確認日	2025年3月4日
延床面積	6,542 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 66%
③上記+②以外のオンサイト手法 66%
④上記+オフサイト手法 66%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		その他
総合 名古屋市内に建設される地上12階建、S造の事務所。 断熱性能を高めるとともに、高効率設備や節水器具を採用し、ライフサイクルCO ₂ 排出量の削減に務めた。		特になし。
Q1 室内環境 化学汚染物質対策として、内装材及び取付接着剤は全て☆☆☆F4を採用した。	Q2 サービス性能 建物の耐用性・更新性に配慮し更新間隔の長い配管を採用した。 建築基準法の25%増の耐震性を有する計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 接道部を積極的に緑化するとともに、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている外観とすることで良好な景観を形成した。
LR1 エネルギー 高効率の設備を採用することで運用時の消費エネルギー削減に努めた。	LR2 資源・マテリアル 水資源保護として自動水栓や節水型便器を採用。躯体と仕上げ材が容易に分別できるようにするとともに、再利用できるユニット部材を採用することで部材の再利用可能性向上に努めた。	LR3 敷地外環境 省エネ性能向上によりライフサイクルCO ₂ 排出率を46%とし、地球温暖化への配慮を行った。 また、燃焼器具を採用しないことで、大気汚染の防止にも配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市名駅南1丁目 PJ 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策			4.2
LR1 エネルギー	4.3	0.4	/
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.3	0.1	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生			2.3
Q3.1 生物環境の保全と創出	2.0	0.09	/
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会			3.1
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。